

令和4年度第1回花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議 会議録

1. 開催日時

令和5年3月28日(火) 午後3時00分～午後4時20分

2. 開催場所

花巻市定住交流センター(なはんプラザ) 2階会議室

3. 出席者

■委員出席者：7名

岩手県立大学総合政策学部教授 倉原 宗孝

岩手県南広域振興局土木部花巻土木センター建築指導課長 佐々木 加奈枝

花巻商工会議所地域開発委員会委員長 木村 清且

一般社団法人岩手県建築士会花巻支部長 佐々木 繁樹

岩手県交通株式会社花巻営業所長 高橋 正彦

花巻市芸術協会 事務局長 平藤 高雄

社会福祉法人光林会就労支援センタールンビニー所長 高橋 盛一

■委員欠席者：2名

花巻温泉郷観光推進協議会副会長 清水 隆太郎

花巻地区タクシー業協同組合理事長 立花 徳久

■オブザーバー出席者：1名

国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課長 高濱 康亘

(代理出席：国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課 建設専門官 渡辺 央)

■事務局：4名

建設部長 鈴木 之

建設部次長兼都市機能整備室長 佐々木 賢二

建設部都市機能整備室次長 神谷 竜也

建設部都市機能整備室上席主査 高橋 和司

4. 傍聴者

一般傍聴者なし、報道機関3社

5. 次第

(1) 開会(佐々木建設部次長)

(2) あいさつ(鈴木建設部長)

(3) 委員委嘱

(4) 説明 「花巻駅東西自由通路(駅橋上化)整備事業の概要について」(説明：高橋上席主査)

(5) 協議

- 1) 座長の選出について（説明：神谷次長）
 - 2) 花巻駅橋上駅舎・東西自由通路デザインコンセプト案について（説明：高橋上席主査）
- (6) その他
- (7) 閉会

6. 会議録

【都市機能整備室神谷次長】皆様大変お待たせしております。開会に先立ち、皆様にお願いがございます。本日の会議は、議事録作成を目的とした会議録作成支援システムを使用しております。委員各位におかれましては、ご発言の際には挙手していただき、事務局職員から受け取ったマイクを使って発言いただきますようお願いいたします。なお、本日の議事録につきましては、後日、花巻市のホームページにて公開させていただきますことについてご了承いただきますよう、あわせてお願い申し上げます。

【佐々木建設部次長】出席予定でございました倉原先生がまだちょっと見られておりませんが、ご案内のお時間となりましたので、ただいまより第1回花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議を開会いたします。開会にあたりまして建設部長の鈴木よりご挨拶を申し上げます。

【鈴木建設部長】こんにちは。建設部長の鈴木と申しますどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様におかれましては、年度末のお忙しいところを花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。また日頃より花巻市行政の推進に対しましても、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに重ねて感謝申し上げます。

さて花巻駅橋上化・東西自由通路整備につきましては、区画整理事業や花巻東高校、花巻南高校の移転、ショッピングモールの進出などによって人口集積が進んだ駅西側地域の方々の要望を受けまして、駅利用の利便性向上ですとか、地下道に代わる駅東西の往来に対する安全性の確保ですとか、さらには、魅力ある市街地の形成などを目的として、整備を検討しているところでございますけれども、先日の3月の議会におきまして、令和5年度の当初予算ですけれども、基本設計に関する予算をお認めいただきまして、工事着手に向けて一歩前進したというような状況になっております。また事業実施に向けて、昨年実施いたしました、市民や各団体の方々、更には市内の高校生の説明会におきましては、新たな花巻駅及び東西自由通路のデザインに関する関心が非常に高く、JR東日本からも、基本設計に入る前にデザインコンセプトを示していただければ、基本設計において検討するというようなお話もいただきましたことから、今年1月からこの3月にかけて、3回にわたってでしたけれども、高校生10名、一般の方17名の合計27名の方々の参加による、ワークショップを開催させていただきました。整備費の増加に繋がるような構造的な変更ですとか、整備面積の増加は行わないということを前提といたしまして、10代から70代の方々でしたけれども、幅広い世代の方々から外観ですとか、内観についての花巻らしいデザインについてご検討をいただいたところでございます。

本日開催させていただきます有識者会議ですけれども、このワークショップで検討いただいた結果を更にブラッシュアップするような形で、花巻駅及び東西自由通路の外観や内観などのデザインコンセプトについて専門的な知見からご意見を賜りたいと思っておりますし、今後におきま

しても、駅と駅東西の駅前広場ですね、調和のとれた景観についても、更にまたご意見をいただきたいというふうに考えているところでございます。

今日は、是非とも皆様方の視点において、自由に積極的なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木建設部次長】 それではお手元にお配りしております次第に基づきまして、会議を進めさせていただきます。

次第の3、委員委嘱につきまして、この度、花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議委員として委嘱いたします皆様へ委嘱状を交付いたします。皆様におかれましては、このたびの花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議委員の就任につきまして、ご承認いただきまして、誠にありがとうございます。本来であれば、委員お1人ずつ委嘱状の手交を行うところではございますけれども、会議時間の関係から、予めテーブルの上に委嘱状を置かせていただき、各委員の皆様のご紹介をもって、委嘱状交付とさせていただきますと存じます。お名前を呼ばれた委員におかれましては、一度ご起立をお願いいたしたいと思っております。

それでは初めに、岩手県県南広域振興局土木部花巻土木センター建築指導課長、佐々木加奈枝様。花巻商工会議所地域開発委員会委員長、木村清且様。一般社団法人岩手県建築士会花巻支部支部長、佐々木繁樹様。岩手県交通株式会社花巻営業所長、高橋正彦様。花巻市芸術協会事務局長、平藤高雄様。社会福祉法人光林会就労支援センタールンビニー所長、高橋盛一様。

また、この度、オブザーバーといたしまして、国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課建設専門官の渡辺央様にご参加をいただいております。

なお、委員のうち、花巻温泉郷観光推進協議会副会長、清水隆太郎様。花巻地区タクシー業協同組合理事長、立花徳久様。このご両名におかれましては本日欠席とのご連絡をいただいております。

また、本日出席予定でありました、岩手県立大学総合政策学部教授、倉原宗孝様につきましては、ちょっと遅れるということのようでございますので、後程ご紹介申し上げたいと思っております。

それではここで事務局職員の紹介をさせていただきます。建設部長の鈴木でございます。同じく本日説明を担当させていただきます都市機能整備室上席主査の高橋でございます。今回進行を務めさせていただきます、私は建設部次長の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは続きまして次第の4、説明「花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備事業の概要について」、事務局よりご説明をいたします。

【都市機能整備室高橋上席主査】 はい、それでは事務局の高橋より、資料No.1のJR花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備事業の概要についてご説明をさせていただきます。お手元の資料No.1と、スライド画面につきましては同じものがございますので、どちらを見ていただいても結構でございますのでよろしくお願いいたします。

それでは2ページ目をご覧くださいと思います。こちら、橋上駅の整備後のイメージ図になってございます。この図を見ていただきますと、駅舎につきましては今まだ白い箱のままになってございますけれども、こちらは、整備の構造等をそのまま反映した場合をただの白い箱の状態で見ているものでございまして、駅舎の外観のデザイン等につきましては、基本設計

の段階で検討させていただくというものでございます。ですので、固定的なイメージがつかないように、あえて白い箱のままにして表示をさせていただいているものでございます。

続いて3ページ目をご覧くださいと思います。橋上駅の整備概要の平面図でございます。まず、緑色の部分が東西を結ぶ自由通路になってございます。そして、赤色の部分が自由通路に接続する駅舎になってございます。まず、緑色の自由通路でございますけれども、通路の幅員は有効幅員4メートルでございます、東西の階段部分に上り専用のエスカレーターが設置されますし、東西にエレベーターが各1基ずつ設置されるというものでございます。自由通路の真ん中から駅舎に入る改札口、ちょっと見えづらいですが、赤い線で囲っておりますが改札口から駅舎に入らせていただくとそれぞれ電車を使わせていただくというものでございます。

1階部分が右側の図でございますけれども、東西の黄色い部分が公衆トイレでございます、東西にトイレを設置するというものになってございますし、青色の部分はJR側で設置いたします旅客サービス施設、いわゆるコンビニのようなものを想定しておりますけれども、こちらを設置するというものになってございます。

事業費でございますけれども、概算整備費といたしましては全体で約35.9億円となっておりますけれども、このうち約半分を国の補助金を活用させていただくことにしてございます。そして残りの市の負担部分につきましては、合併特例債の活用を考えてございます。この合併特例債ですけれども、返済額の約7割が国から交付税として措置されるものでございますので、それを引きました市の実質的な負担といたしましては約5.91億円というふうに試算をしているものでございます。下に整備の概略のスケジュールが記載してございますけれども、来年度、基本設計に着手させていただきたいと思っております。そして、基本設計が終わった後に実施設計、工事という形で移っていきます。自由通路及び駅の供用開始につきましては、6年目の令和10年度後半を想定しているというものでございます。

続いて4ページをご覧くださいと思います。西口駅前広場の整備の検討でございますけれども、今回の自由通路の整備に伴いまして、駅西口駅前広場の整備も検討しているところでございます。こちらは、西口駅前広場の整備案のイメージパース、イメージ図になってございます。西口のロータリーを拡大いたしまして、真ん中に一般車の待機場所や、タクシーの待機場所、あとロータリーの縁に沿って、バスの乗降場所やタクシーの乗降場所を設置する案になってございます。さらに奥に見える建物が自由通路の西側の出入口になりますけれども、そちらの自由通路の近くに、障害者用の乗降スペースを設置させていただくというイメージ図になってございます。

5ページをお開きいただきたいと思います。先ほどご説明させていただいた西口駅前広場の整備案の平面図になってございますけれども、こちらは細かく書いてございますが、今後、どのような整備が可能かどうかを調査のときに検討させていただいた図になってございますので、詳細につきましては、西口駅前広場の基本設計をする際に検討させていただきたいというふうに考えているものでございます。

続いて6ページをお開きいただきたいと思います。今回のこの整備概要につきましては、昨年の9月から10月にかけて、市民説明会を開催させていただいております。市民説明会につきましては15ヶ所、計19回を実施させていただきまして、延べ参加者数は267名の方にご参加をいただいたところでございます。市民説明会の中では、将来を見据えて良いものを作って欲し

いでありますとか、早期実施を望むなど前向きな意見を多くいただいたところでもございましたし、あと駅舎及び自由通路のデザインに関する意見などもあったところでもございます。市民説明会に合わせまして、説明会に参加いただいた方にアンケートをさせていただいております。その中では、事業実施の可否については、実施に賛成の方が約 8 割。半橋上駅か橋上駅のどちらが良いかという部分につきましては、橋上駅が良いという方が約 8 割ということでご回答をいただいたところでもございます。その他の団体等への説明と、高校生への説明についても併せて実施させていただいております。どちらの説明でも前向きな意見を多くいただいたところでもございます。

続いて 7 ページをお開きいただきたいと思います。市民説明会等でデザインに関するご意見を多くいただいたということもございましたし、J R 東日本からは、基本設計の前に、市がデザインコンセプトを示せば、デザインについて考慮するというお話もいただいていたところでもございます。そこで市としましては、花巻らしいデザインコンセプトを市民の意見を伺いながら作るため、デザインコンセプト検討ワークショップを開催させていただいたというものでございます。そしてさらに専門的な知見に基づきまして、ワークショップで出されたデザインコンセプトに対する意見聴取などを行う有識者会議を本日開催させていただいているというものでございます。ワークショップの概要につきましては後程ご説明をさせていただきますので、説明を省略させていただきます。

続いて 8 ページをお開きいただきたいと思います。今後の予定でございますけれども、来年度の 4 月に J R 東日本と事業の実施について基本的なものを定めた基本協定というものを締結する予定としてございます。その基本協定の締結の後、基本設計に関する協定を J R 東日本と締結する予定としてございます。この基本設計の中で、駅舎のデザインや自由通路のデザインを J R 東日本側に検討していただくというものになってございます。そして、11 月頃を現在想定してございますけれども、この時期はちょっとずれるかもしれませんが、J R からデザインコンセプトを材料にデザイン案を三つほど提示いただくことにしてございます。その出されたデザイン案につきまして、12 月頃に、今回のワークショップメンバーからまた意見を聞かせていただく場を設けたいと思っておりますし、さらにデザインに関して地域説明会という形で市民説明をさせていただきたいというふうに考えてございます。そして市民説明会等の意見を付して、改めて有識者会議の委員の皆さんにデザイン案に関してご意見を伺いたいというふうに考えているというものでございます。説明については以上でございます。

【佐々木建設部次長】 はい。それではちょっと遅れておりました岩手県立大学教授の倉原先生が見えられましたので、ご紹介させていただきます。

【倉原宗孝委員】 遅れて申し訳ありません。

【佐々木建設部次長】 はい。ありがとうございます。それではただいま花巻駅東西自由通路（駅橋上化）整備事業の概要について事務局から説明いたしましたけれども、何かご質問等はございますでしょうか。様々な場面で説明をさせていただいておりますけれども、改めてちょっと疑問があれば、お気軽にお聞きいただければと思います。よろしいでしょうか。

はい。では続きまして次第の 5、協議でございますけれども、花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議設置要綱第 6 条の規定により、会議の議長は座長が当たることとなっておりますけれ

ども、本日が最初の会議開催であり、座長が不在となっております。つきましては、座長が選任されるまで、事務局で進行させていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声）

【佐々木建設部次長】はい。ありがとうございます。

それでは次第の5協議の（1）座長の選出について事務局からご説明を申し上げます。

【都市機能整備室神谷次長】はい。それでは、協議事項（1）座長の選出について、ご説明申し上げます。座長の選出につきましては、設置要綱第五条の規定により、座長を置くこととなっております。委員の互選により選任することとしておりますことから、委員の皆様にお諮りするものでございます。座長の選出につきまして、立候補または推薦がございましたらお願いいたします。

【佐々木繁樹委員】事務局からの提案はありますか。

【都市機能整備室神谷次長】はい。ただいま、事務局からの提案ということでございましたので、事務局案として、座長に岩手県立大学教授の倉原宗孝委員を推薦いたします。

【佐々木建設部次長】はい。ただいま事務局から座長に倉原宗孝委員を推薦する提案がございました。皆様ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声）

【佐々木建設部次長】はい。ありがとうございます。

ご異議ないようですので、座長を岩手県立大学教授の倉原宗孝委員に決定いたします。ただいまの決定によりまして、倉原委員が新しい座長となられましたので、以後、議事進行につきましては、倉原委員をお願いいたしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【倉原宗孝座長】遅れて、さらに座長ということで申し訳ないんですけど進行させていただきます。私がない時にご説明あったのかと思っておりますけど、私も3回ほど市民ワークショップに関わらせていただきました。限られた時間ですからデザインとかいろいろ詰めはいろいろあるかと思いますが参加された方々、特に高校生の世代の参加が非常に活発で、熱心な議論をされたと思っておりますし、駅を考えるワークショップでしたけども、同時に花巻のまちのことも考えるような、ご意見とか非常に出て有益な会だったかなと思ったところです。もしかしたらそんなことがご説明あったのかなと勝手に想像しつつ、進行させていただきます。

早速ですけれども次第の協議、橋上駅舎、東西自由通路のデザインコンセプト案についてということで、これは事務局からご説明でいいでしょうか。お願いします。

【都市機能整備室高橋上席主査】それでは資料ナンバー2-1からご説明をさせていただきたいと思っております。画面のスライドは、お手元の資料と同じものでございますので、どちらを見ていただいても結構でございます。まず、最初に3月19日まで開催をさせていただきましたデザインコンセプト検討ワークショップの検討の経過をご説明させていただきたいと思っております。

2ページ目でございます。ワークショップの参加者の構成でございますけれども、指名枠参加ということで団体から推薦いただいた7名の方、あと公募枠参加者ということで一般公募の方10名の方、市内高校生10名、合計27名の方にご参加をいただいて検討をしていただいたものでございます。ワークショップにつきましては、1回から3回までということで、1月29日から3月19日までそれぞれ3回開催をさせていただいてございます。

次のページでございますけれども、検討の流れ、検討のテーマでございますけれども、まず1回目にこれまでの整備の検討経過と、検討の条件をご説明させていただきまして、そのあとに、花巻の残したい風景、花巻らしさとはということで、それぞれが自由に活発なご意見をいただいたというところでございます。

第2回には、1回目に出た内容を踏襲いたしまして、花巻駅及び駅周辺に創り出したい景観テーマ、それぞれのストーリー世界観について、グループごとに分かれて、検討していただいたというものでございます。

そして第3回目に、それぞれのグループが考えたコンセプト案ということでまとめていただいたというものでございます。

今回のワークショップの話し合いのルールということで下に書いてございますけれども、冒頭部長の鈴木の方から申しあげましたように、駅舎や自由通路につきましては、これまで整備費のコストダウンを図ってきた経緯がございますので、整備費の増加に繋がるような構造的な変更でありますとか、整備面積の増加はしないことを前提といたしまして、橋上駅舎や東西自由通路の外観や内観に関わるアイデアを検討していただいたものでございます。建物の配置というか、構造等を見直す意見については、対応できないということをあらかじめご説明をさせていただいたというものでございます。

次のスライドでございます。1回目の検討テーマでございますけれども、花巻の残したい風景や花巻らしさということで、意見を出していただきました。その際に出された意見につきまして、隣に書いてありますが、イメージを整理したものの、概要版というものでございます。花巻のイメージとしてお祭りであったり、宮沢賢治とか、そういった意見が出た中で、新しい駅舎についてそれをどう生かすかということで検討いただいたというものでございます。

続いて5ページをお開きいただきたいと思っております。こちら第2回ですけれども検討いただいたテーマといたしましては、花巻駅及び駅周辺に創り出したい景観テーマ、ストーリー、世界観ということで検討していただきました。右側に書いてある図ですけれども、多次元尺度構成分析というものでございますけれども、こちらの分析手法といいますのは、単語の類似度を元に対象の関係を視覚的にわかりやすい形に変換する分析手法ということで、AIを用いて分析した結果ですが、こちらの1から5までの大きな括りができましたので、この五つのテーマについて、それぞれグループワークで検討していただいたというものでございます。

その第2回の検討テーマで分類されたものが6ページでございます、レトロな街並みとか、スタイリッシュ、あと宮沢賢治、文化伝統芸能ということで、宮沢賢治についてはレトロな街並みにもスタイリッシュにも融合する形で、そういった意見が出てきたというものでございます。

最後、第3回の7ページでございますけれども、それぞれのグループでコンセプト案をまとめていただいたというのが、ワークショップの検討の経過でございます。

どういったコンセプト案が出されたのかということにつきましては、お手元の資料の資料No. 2-2を見ていただきたいと思っております。こちらワードになりますのでお手元の資料を見ていただく形でお願いしたいというふうに思いますが、こちら1班から4班まででございます。こちらがメインの資料になりまして、少し詳しく目にご説明させていただきたいと思っております。

まず1班のデザインコンセプト案でございますが、まずコンセプトのタイトルといたしまして

は、「残す」・「変わり続ける」・「遊ぶ」花巻ということでございます。

そのコンセプトのメインテーマといたしましては、まず「残す」ことにつきましては、花巻の魅力として住んでいて落ち着く・住みやすいというものがあるよということで、これから花巻に住みたいと思う人を増やすためにも、花巻の良さを感じるような駅舎としたいという意味が込められてございます。また、花巻の良さや素晴らしさとして宮沢賢治や自然の豊かさ、名物や特産品などがあり、その要素を駅舎のいたるところに散りばめることができると良い。またそのことを後世に残して大切にしていけるような駅舎としたいということが、「残す」ことということでございます。

また「変わり続ける」ことにつきましては、駅舎は完成したら終わりではなく、色々な方が関わりながら変化をしていくような場とすることが良い。そうしないと、駅舎を利用するだけの場となってしまう。コミュニティの場、交流の場として地域の人が自然に集まるような場としたいということが「変わり続ける」こと。

そして「遊ぶ」ことでございますけれども、光の演出など工夫をし、遊び心のあるデザインとしたい。またワクワクする新しい発見や出会い、新しい使い方ができるようなものとして、ということでこのテーマを選んでいるというものでございます。

それではデザインの概要でございますけれども、まず宮沢賢治の世界を取り入れることと、スタイリッシュな空間づくりの両方のデザインを取り入れるというものでございまして、まず外観として「宮沢賢治の世界を散りばめる」、駅なので銀河鉄道のイメージをメインとしつつ、賢治の他の物語を表現することを、外観に散りばめたい。花巻や宮沢賢治をモチーフにした花や木を植える。賢治の有名なシルエットの姿を入れる。花巻に来たということがわかるような印象的な場が1ヶ所欲しい。

「スタイリッシュな空間づくり」につきましては、賢治のイメージを取り入れつつ、外装はシンプルなものとして、木は、温かさやぬくもりを感じるもので、人を惹きつけるので、全体でなくてもポイントで使用したい。木をタイル張りで組み方を変えていく工法もよい。床や足元の演出を施して目線が下でも気づきのあるものとする、というものでございます。

1 班の内観の部分でございますけれども、外にあるものが中に、中にあるものが外に設置してあればそれだけで異空間になるので、そのような演出ができればよい。

具体的なしつらえでございます。まず「遊びのしつらえ」でございますけれども、時間や季節ごとに変わる光の角度に着目し、ステンドグラスを自由通路の一部にうまく配置し、光の表現を使いたい。夜も昼も楽しめるような照明の使い方が重要である。間接照明で夜も光で演出したい。外の景色が見えるような窓、子供が見えるような下部にも設置する、というものでございます。

「自由通路のしつらえ」でございますけれども、自由通路は4メートルとなっているので、いろいろな使い方ができるのではないかと。待合室が狭いので二階の自由通路の部分の東西に出入口を設け、風が入らないように工夫をし、2階の自由通路の部分にいろいろな機能を持たせたい。花巻市や各地域の紹介やPRができるような場を設ける。作品を展示できるようなスペースを設ける。勉強ができるような休憩スペースを設ける。

「花や木」というところでございますけれども、外観にも内観にも花巻を取り入れたい。外には花壇や木、リンゴの木など置く、花壇は多年草と宿根草の2種類を植え通年で楽しめるものとし

たい。内部の自由通路にも花壇を設置したい。花壇や木の管理には地元の人や中高生が関わっていくとよい。

「みんなでサポート」というところがございますが、このような場、これはワークショップのことでございますけれども、このような場を継続しサポートする住民組織づくりや意識を高揚させていくことが重要である。今回参加した高校生と一緒に何かできないか商品開発やイベントなどできる、ということでご意見をいただいております。

「その他」といたしましては、駅前の空間を活用し、新しい取り組みができるようにしたい。地域の人が集まって来たり、駅利用の人以外も駅に来るような仕掛けづくりをしたい、ということで1班はご検討いただいたというものでございます。

続いて2班のコンセプトでございます。コンセプトのタイトルは「This is 花巻」というものでございます。

このコンセプトのメインテーマでございますけれども、花巻の要素がふんだんにある場所というものと、季節感豊かな場所、交流人口の拡大に資する施設にしたいということで This is 花巻というタイトルをつけております。

「花巻の要素がふんだんにある場所」という部分につきましては、花巻といたらここという地域の展示場としての機能を持たせ、皆さんに愛される場。花巻だけではなく、大迫、石鳥谷、東和の4地域のすべてが表現されている場。これらを総じて「花巻の缶詰」との表現で現したいということでございます。

「季節感豊かな場」といたしましては、お雛様や夏はかわいい花が咲く、クリスマスはイルミネーションが綺麗な場という季節を感じられて観光客の方は驚きとなるような場。

「交流人口の拡大に資する施設にしたい」という部分については、国内外から来て楽しめるように、また駅が目的地になるような場所にするというものでございます。

デザインの概要についてでございますが、内装についてシンプルな色ということでございます、照明で季節感を出したり、空間ごとに分ける。花巻、大迫、石鳥谷、東和の特産を何かで表す。例えば石鳥谷の稲を使った稲の壁を表現する。レトロなしつらえとして照明を暖色系などにして落ち着かせる。

外装についてでございます。こちら色はシンプルということでございます。花を植えたい。また腰壁には木を活用したい。各地域の特産を何かしらの形で表す。市内中学校とかにある賢治の鉄でできたシルエットを配置してまちなかの統一感を出したい。またはそれをまねる。花巻の花を使った壁など。スワッグでありますとか、あとは地域で花壇を維持しているのでそういった取り組み。冬はイルミネーションで対応する。ということでご意見をいただいているというところでございます。

その他でございますけれども、入口に清潔感があると、皆さん綺麗に使ってくれるという意見がございましたし、花巻に来たことがわかるように、花巻っぽい音などをBGMにすると良いと思う。写真撮影ができる場所があればいい、ということでございます。

具体的なしつらえといたしましては、まず照明については、学生の方が勉強しやすいLED照明。場所の用途に合わせた照明や家具。窓については、太陽光を計算して設置。窓はステンドグラスにする。窓がないところは外壁であれば見えるところに絵を掲示したい。

一番多く使う学生が過ごしやすい場として、モニターの設置、勉強スペースとしてコンセントはWi-Fiが完備されていると学生はもちろん外国人観光客にもありがたい施設になる、ということ。

案内につきましては、電車が着くと音が流れる仕様にすれば良いのではないかとということをございましたし、案内表示、周辺規模ってというのは案内をする地域のエリアを広げて広く案内したら良いのではないかとのご意見でございます。

環境性能については、温度調整ということで、節電でありますとか、自然エネルギーを活用してはとか、あとは災害対応のデザインを検討してはどうかということでご意見をいただいたというところでございます。

続いて3班のデザインコンセプトでございます。「Feel 花巻」～花巻まるごと詰め込んだ感じる花巻盛りだくさん～というコンセプトになってございます。

コンセプトのメインテーマといたしましては、花巻をまるごと感じられる昼も夜も明るい駅を演出するため、花と鹿踊りをモチーフに素材には木材を多用して花巻らしさを感じさせます。また、窓によって自然光をうまく使い明るく温かみのある駅を実現します、というものです。

要素・テーマとしましては、明るい、花巻をまるごと、鹿踊り、ということでございます。

デザインの概要でございますけれども、外観はシンプルで1色の壁とし、プロジェクションマッピングができるよう、凹凸を少なくします。東側の階段部分にはスタンドガラスの窓を設置し、駅舎外側にはこれまで使っていた時計を設置し、駅舎の中は機能的な時計とします。自由通路などには大きな窓を設置し、朝日や夕日、景色が見え、子供たちが電車を見られるようにします。天窗や電車を見られるようにします。というものでございます。スタンドガラスや壁、フェニチャーの模様には花や鹿踊りの衣装のモチーフを採用し、花巻を感じられるようにします。駅舎の中は木材を多用し、温かさを重視します。

具体的なアイデアといたしましては、鹿踊りをモチーフにしたアイコンですとかキャラクター、あとはのれんということ意見が出ています。エスカレーターの側の壁の外観は白で、これはプロジェクションマッピングができるようにということで、凹凸があまりないこと。スタンドガラスの窓が一部あっても良い。スタンドガラスのモチーフは鹿踊り、花など。白でも黒でもブロックレンガ、アイボリーでもよい。鹿踊りの刺繍など、流派が違うのでそういったものも紹介しつつモチーフに取り入れたい、というものでございます。

具体的なしつらえといたしましては、駅舎の時計について、外観はデザインを重視し、これまでと同じ時計を使うなど、そういったストーリーがあると良いというものでございます。

内観については機能的な時計にするというものでございます。

次のページの自由通路の部分でございますけれども、大きい窓で景色と電車が見える。あと床から電車が見えるように一部ガラスにするというアイデアが出てございます。

その他の要望ということでございますけれども、朝日と夕日が見えるところに大きな窓があれば良いのではないかとということでございます。あとは座るベンチが欲しいということ意見が出てございますし、Wi-Fiが欲しいでありますとか、待合室やテーブルが欲しい。生け花をいけるスペースを駅舎の中に設けたい。駅舎の壁にパネルヒーターが欲しい。あとは「教えてボード」を設置し知らない人との繋がりができれば良いのではないかとということ意見をお願い

おります。あとはお土産を展示販売してくれるスペースが欲しいでありますとか、待合室を明るくして欲しいという意見が3班の意見でございました。

最後、4班のデザインコンセプトの案でございます。まず4班のタイトルといたしましては、「あの頃の自分にもう一度会える花巻」というものでございます。

コンセプトのメインテーマは、暮らしてきた場所や世代を超えてあの頃ふと思い出す場所、というものでございます。その中身でございますが、駅は旅のスタートとゴールである、通学通勤、出張、旅行はもとより進学や就職による引っ越し単身赴任、久々の再開など、出会いや別れの場となる。そんな多くの人を持つあの頃を、花巻で生まれ育った人に限らず、市外県外の人でも思い出す場にする。宮沢賢治やレトロ感が、日本人であれば誰しもが持つであろう、あの頃の記憶を想起させる。宮沢賢治作品は多くの人々が幼少期に触れてきたはずである。レトロ感が大正から昭和の時代を想起させる。花巻市街の雰囲気とも合っており、まちと駅舎がスムーズに接続される。ということでこれを「思い出すという場所」で設定したということでございます。

そして、これからあの頃をつくり出していく場所として、あの頃を思い出してもらおうとともにこれからこの駅舎であの頃をつくり出していく。そのためにも駅舎を日常的な利用ができる場にするということでございます。

デザインの概要でございますけれども、あの頃を表現するための宮沢賢治、レトロをモチーフとして取り入れる。あの頃を作り出すために日常的な利用を促進する。まず宮沢賢治といたしまして、作品としては銀河鉄道の夜、星めぐりの歌、よだかの星、グスコブドリの伝記が挙げられる。多くの人にとって記憶に残る作品である。駅を利用する人の記憶に残るように色や絵などで各種作品を抽象的に表現したい。一方、作品の文章をそのまま表現しイメージを受け手側に任せる仕掛けがあってもよい。夜空が思い浮かぶので、通路の天井に夜空や天の川を表現する。ということでございます。

レトロの部分でございます。賢治が生きた大正時代や花巻市街の昭和の雰囲気を表現する。花巻市街が昔の雰囲気をよく残しているので参考にする。

日常的な利用の部分でございます。花を通した地域との交流を生み出す。花壇があれば地域の方や小学生を巻き込める。市内にあるフラワーアレンジメントを作成している団体があるので、連携体制をとれるとよい。昔、駅にあったような掲示板、黒板のイメージを設置する。掲示板を通して交流を図る。観光客と市民の接点を作る。マルシェを開催してリアルな交流を生み出す。

最後8ページでございますけれども、駅舎で勉強する高校生が多いため勉強スペースを意識した場を作る。仕切り、椅子、明るさ等に配慮があるとよい。様々な展示や仕掛けは、子供の視点、高さでも楽しめることを意識する。写真展などの催しを行えるとよい。

具体的なしつらえでございますけれども、時計ということで、歴代の駅舎にある時計を参考にしたデザインとする。

ベンチについて、今のベンチは木材を作って使っているので温かみはあるが堅いのでずっと座るには辛い。

照明は、今の駅内は勉強するには暗い。勉強できるスペースはもっと明るくする。

窓でございますが、スタンドグラスを設置する。朝日と夕日が見える位置に窓を設置する。空が色とりどりに見えて綺麗である。小さな子供でも外が見える位置に窓を設置するということで、

4班のコンセプトということでございます。

1班から4班まで、それぞれ検討いただいたものでございますけれども、ワークショップで検討していただいたデザインコンセプト案につきましては、このように参加いただいた方々の駅のイメージや思いが集まったワードの集合体でございます。JRは、このワードの集合体を材料にデザイン案とし、コンセプトをさらに明確に考えるというものでございます。JR東日本ではこのワードを材料に基本設計の際に、デザイン案を3案程度作成しまして、市に提案する予定となっております。ワークショップで検討したデザインコンセプト案につきましては、このように自由な発想で検討していただいたものですので、検討の経過も含めてなるべく手を加えるようなことはせずに、提供したいというふうに考えております。お示ししているこの検討結果でございますけれども、宮沢賢治のイメージなど抽象的なものがございまして、委員の皆様には具体的にどのような表現ができるかなど、それぞれのお立場で、ご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【倉原孝孝座長】はい。ありがとうございます。3回の市民ワークショップということで、僕自身も感じるのは、デザイン、設備、機能、具体的なことも出ておりましたけれども、一方場所の使い方とか、そういうことも出ておりました。ただ、今お話あったように、自由にご意見いただいたので集約されているものではありませんし、相反するような内容も多々あったかと思います。あとは皆様の方から、自由にご意見ご質問いただけたらと思います。よろしく願います。

【平藤高雄委員】平藤と申します。デザイン等を考えることがメインになっているようだけれども、ちょっと確認したいのは、この駅舎にどういう機能が入るのかっていうのがちょっとこの資料では見えない状況があります。例えば、駅舎、駅長室とか駅事務室とか、1階の青色の部分になるかなと思って見ていますが、そういうものとかですね。お店等が入るのか入らないのか或いはこれから決めるものなのかですね。そういう中に入る機能というのがどのようなものなのかっていうのがちょっと、分りにくい部分あるので、どのようなものが入ろうとしているのか、決まっているものがあればそれをお示しいただきたいし、或いは検討中のものがあるとするれば、そこから辺も教えていただければありがたいと思います。以上です。

【都市機能整備室高橋上席主査】はい。事務局からお答えいたします。資料ナンバー1の整備概要、3ページ目をお開きいただきたいと思います。前のスライドでも結構でございますけれども。まずですね、どういった施設が入るかというお話をいただきましたけれども、この緑色の自由通路でございますけれども、幅員が4メートルの幅の通路になってございます。ただこの通路の中には、何か別の施設が入るかという、そういうわけではございませんで、東西に階段とそれぞれ上りのエスカレーターがつくというものでございますし、それぞれ東西にエレベーターがつくというものでございます。そしてここは普通の広い通路ということでございますので、この通路の両サイドに窓とかそういったものがつくというものを、イメージはしてございます。そして、この赤色の部分が駅舎になりますけれども、自由通路の真ん中ほどに改札がございまして、こちらから改札を通して、2番3番線ホームと1番線ホームに、階段か若しくはエレベーターで降りていただくということになります。駅事務室ということでお話がございましたけれども、駅事務室は、東側の二階部分にまず駅事務室が、入ることになってございます。待合室はどこかと言いますとこの、改札に隣り合った部分に待合室があって自由通路側から入ることござ

います。

一方、1階部分でございますけれども、先ほどお店、店舗が入るのかというお話もございました。この青色の部分が、JR側で設置を検討しておりますお店、コンビニのようなものでございます。この東口側に青色の部分にコンビニのようなものが入るという想定をしているものでございます。この1階の赤色の部分はこちらも駅舎の施設の一部ということになってございまして、駅員が使用するスペースになってございます。他の機能はといいますと、自由通路の1階部分には、黄色の部分が東西それぞれございますけれども、西口側のトイレと東口側のトイレということになってございます。自由通路の機能といたしましては、そういった部分ということでございます。

【平藤高雄委員】待合室というのは、どの程度の広さになっているんですか。幅が4m、2mぐらいの幅で、長さが4mとか6mぐらいですか。

【都市機能整備室高橋上席主査】待合室はこちら30平米ということになってございます。これはJRの基準に基づきまして、花巻駅の利用者数の規模になりますとこの30平米という基準があるということでございます。

【平藤高雄委員】中身はわかりました。

【木村清且委員】商工会議所の地域開発委員会の委員長をしております木村と申します。皆さんの色んなご意見を見させていただきましてですね、まず宮沢賢治をテーマにという話でありますけど、東北本線がもう賢治はできている時代。1900、十何年かな。妹のトシさんが去年没後100年だったんですが、花巻を出発しまして東京駅に着いているんですね。東京駅が今の東京駅なんですよ。要するに、戦争のときに被災して、今まではずっと私らが見ていたのは二階建ての賢治とかトシが見ていない東京駅なんですよ。で、賢治さんは、その翌年、トシよりも1年遅れて、22、21かそこらで東京駅に行っているんですね。その後、東京には9年間で360日間行っているんですね。非常にこの東北本線も花巻との、そういう賢治と交通機関。さらに盛岡、当然来ているわけですけど、当時、すでにもう岩手銀行中ノ橋支店ができてあるんですね。イメージとしますと、レンガの赤色、それからドームのスレート瓦。そういったようなものが、賢治とトシが使用した時代の駅のイメージかなと思っております。で、もう一つはですね、ここにもありましたけど、シグナルとシグナレスという作品がございます。これは東北本線とそれから釜石線の物語をもじっているわけですけど、パッセン大街道という言葉もございますね。パッセンとは、「パッ」は花巻のこと、「セン」は気仙の仙、に至る道路と駅舎のイメージ。それでさっきこの中にありましたけど、四つの市町が合併しましたんで。東和町がパッセン大街道のイメージだっていうふうにこう言ってましたんですが。この花巻でも駅舎でそういうイメージがあってもいいのかなと思ったんですけど。というのは、ここですね、駅舎の2階に、賢治の時代に精養軒の花巻支店があったんですね。それで賢治が病床の時に、草野心平先生がですね、ここでカレーライスとかいろんなもの食べているんですね。そういうイメージ、これは、僕は宮沢賢治を題材にするとそういう事かなと思っておるんですけど。もう一つは、花城の花巻の駅、それは軽便鉄道が、街中にある駅として花巻駅。そこがいろんなものを、要するに海の方に出荷したり、逆に持ってきたりするんですけど。そこに要するに、軽便鉄道の本社があったんですね。この駅舎の社屋をよく見ますと石造りなんですよ。だから、僕は予算どうのこうのというなというふうにこれ書いてま

すから、そんな言いづらいところでもありますけれども。今の花巻の駅のところは、何年か前に外観をペインティングして書いてましてですね。ああいうイメージが割とそこがあるのかなというふうに思っております。当然予算の規模がありますでしょうから、そういった石造りとか壁面スレートっていうのは難しいでしょうけれども、例えば飾り窓の窓先柵とかですね、あと隈取りとか、そういったものでイメージができるのかなあというふうに感じております。あと、これは確認ですけど、今の釜石線はそのままそこに入ってくるんですね。

【鈴木建設部長】そうですね。

【木村清且委員】で、本線はいじらない。

【鈴木建設部長】はい。

【木村清且委員】そうしますとですね、まずもう1点。いろんな橋上の例として六原でしたっけか、ありますよね。そういう橋上の建物はですね、あるんですけど。高さの関係ですね。駅をグランドラインとしましてですね、そこからおそらく普通の建物と違って、7メートルぐらい高くなると思うんですね。一旦上がって、また下がるんですね。今の時点はそれでいいかもわかりませんがいろいろ市の方で検討している将来に向けての公共施設。上がって下がってあそこにこう行くというと大変なので、出来ましたらペDESTリアンデッキとかですね。そういうものを周辺にできるようなスペースとですね、将来的にそういう色々お考えになっているような施設にスムーズに移行できるような、そういうスタイルのプランニングが、どこかに加味されていればよろしいかなと思っております。すいませんいろんな話しました。

【倉原宗孝座長】はい。ありがとうございます。賢治のいろんなモチーフと同時に、アイデアっていうかでしょうか。協議の上で参考にしてくださいというところかと思えます。ありがとうございます。他いかがでしょう。

【平藤高雄委員】もう1回というか、すいません。ちょっと確認させてください。平藤です。先ほど待合室の大きさをお聞きました。5m、6mの30平米と。大体何人ぐらい、待合室に入れるような広さなのかっていうのを教えていただきたいです。それから、基本的にいろんなワークショップでこういうものがあつたらいいなっていうのを語って色々思いを述べられています。例えば物産的なものを紹介するようなコーナーがあつて欲しいとかですね、お店が欲しいとか、いろいろ多種多様な花巻をアピールするようなものを、空間を用意して欲しい、空間を作つて欲しい。そういう希望があるわけです。建物を考える場合、この大きさだとそういうスペースは、この通路の中にしかできないような気がするんですね。これ以上のものがないとすればですね。ですから、そういうものをJRでやらないでしょうから、市としてどのようなものをやろうとしているのか、やれるのかということをお考えがあればお伺いしたい。それから、必要最小限の待合所、ごめんなさいあの通路ですね、東西通路4mというのはどれくらいまで縮められるものなのか、いろいろ基準があるでしょうから、幅は最低確保どのぐらいは必要だというような基準があるような気がするんですけども、そういうものっていうのはどうなっているのか。ちょっと質問だけで申し訳ありませんが教えてください。

【都市機能整備室高橋上席主査】はい、まず待合室に何人入るのかという部分ですが、ちょっとJRから示された中に何人というものがちょっとなくてですね、30平米という部分で。

【倉原宗孝座長】30平米ということであれば、この会議室の半分くらいですよ。そういったイ

メージでよろしいと思います。

【都市機能整備室高橋上席主査】 はい。そうですね。イメージとすれば、そういったイメージになります。あと今回は色々いただいた意見の中に、物販とかですね、いろんなご意見いただいておりますけども、展示とかそういったものであればまだその自由通路の壁側に設置するとかですね、そういったものはまだ検討できる余地があるかと思っておりますけども、例えばいろんな特産物を飾るとかそういったものはですね、なかなかこの自由通路の中では難しいかなと思っております。ですので、今回ワークショップの中で、皆さんにご説明させていただいているのは、拾えるものと拾えないものは間違いなくありますよという部分はちょっとご説明をさせていただいています。ただ、自由にですね、この駅舎に対して想いを描いていただいたという部分ございましたので、そういった部分につきましては今後の駅前広場の検討とかを行っていく中で、拾えるものは拾っていきたいというふうには考えているというものでございます。あと自由通路の幅でございますけれども、現在の花巻駅の利用者数を想定した場合に4メートルの幅員が必要だろうということで、今回の4メートルという形になってございまして、有効幅員4メートルでございますけれどもこの4メートルは、現在の地下道と同じ幅ということでございます。

【平藤高雄委員】 そうすれば、基本的に通路は4メートル確保したいと。いろんな物を置いたりしないで、できれば確保したいというふうな基本的な考えるわけですね。はい、意味はわかりました。

【佐々木建設部次長】 多分ですね、例えば手すりですとか、そういったものは準備されると思いますし、あと高校生の方からありましたけども溜まる場が欲しいみたいな話があるんですが、今の手すりは2段にして、ちょっと腰をかけたりできるような手すりが工夫されていたりとか、そういったものもありますので、その辺は工夫次第ということだと思います。あとは、ご意見の中で拾えるものと拾えないものがあるというお話をさせていただきましたが、それについてJRのデザインがどういう形で上がってくるかということもありますけれども、それによって我々としてもその自由通路の中にこういった機能を置いたら花巻らしいですとか、通勤、通学、観光客に対してアピールできるのかとかですね、そういった視点からまたそれぞれ検討するということになると思います。

【倉原孝孝座長】 せっかくですので、皆さんからもご意見を伺いたいと思います。佐々木委員からよろしいですか。

【佐々木加奈枝委員】 皆さんのこの4班のですか、ご意見、コンセプトを見させていただいて共通するワードというのが、私の中でイメージとしては、なんかスタンドグラスとか、何かこう大きなものを設置したりするような、なんかイメージが何となく私の中では湧いてきたんですけども、それで例えば題材とするものが花巻らしいものとかにして、例えば、そこがもしかしたら待ち合わせ場所になったり、みんなが分りやすいようなものっていうんですかね、そういったような空間とかになって、さらに照明というのも非常に皆さん拘りといいますか、ワードとして出てきていたので、そういった照明もちょっと間接照明なのか何なのかちょっとそういったものとかが何となく皆さんのご意見を見させていただいて私の中では、イメージとして湧いてきました。

【佐々木繁樹委員】 建築士会の佐々木と申します。私もですね、デザインコンセプトのワークシ

ョップに3回中、2回参加させていただきました。やっぱり高校生とかですね、一般の方は、どうしても意見多かったのは、宮沢賢治のイメージが強いようで、その童話の世界をですね、表現したいなという意見が多かったように思われます。さっき木村さんが言ったようにですね、お金のかからない方法で、童話のイメージを表現できればいいのかなと思いますし、私、個人的にも東京オリンピックの閉会式に星めぐりの歌が流れたっていうのはですね、非常にうれしくてですね、日本じゅうに、世界にですねアピールできたかなということがありまして、ぜひ駅のイメージもですね、宮沢賢治の童話のイメージを使っただけならなと思うところがあります。以上です。

【倉原宗孝座長】そういう意味で、僕も参加しての感想の一つとしてあったんですが、昭和っていうキーワードが結構出ていて、ただ、高校生が感じる昭和と、私が感じる昭和とまた違うなど感じたところです。ありがとうございます。

【高橋正彦委員】岩手県交通の高橋と申します。この自由通路を見た感じでは、今のJR盛岡駅の北側の自由通路、もしくは現在の矢巾駅、それと同じような感じで作るんじゃないかなと思って見ておりました。自由通路の中に椅子とか置いて欲しいとかってありましたけども、これは多分災害とかあった場合の障害となるので、ちょっとまずいかなという感じが受けました。あとは照明関係で明るくするというのは結構なことだと思いますので、もっと進めていいんじゃないかなと思いました。いろいろな意見を皆さんが考えているようですので、大変いいなと思っております。

【高橋盛一委員】高橋です。皆さんのお話を聞かせていただいたのと、そのコンセプト案の中でやっぱり気になるワードを拾うと、レトロ感とか、あとスタイリッシュっていうのも確かにあるんですが、先ほどから宮沢賢治っていうキーワードも出ていますし、ただ、一方、そのこの図面を見ますと、ほぼこのスペースというのは決まっている、そして物を置けない、それからお店とかそういったスペースも取れないということであれば、もう、先ほど木村さんもおっしゃったんですけど、外壁、もしくは内壁、それから床、天井、あと照明、ステンドグラス、そういった本当に壁面とその空間をコーディネートして、いかにそういうレトロ感とか、その賢治感とか、そういったものを演出するのかっていうところに特化していくとか、そこに集中してやらないと、この皆さんの意見を反映するのはなかなか難しいのかなというふうに感じました。逆に、そこに思いっきり、お金をどのくらいかけられるか分からないんですが、そこに力を注がないと、おそらく他の駅とあまり変わらないと、そういうことで終わってしまうのではないかなと。花巻らしさを出すのであれば、私は、今の時点ではそれぐらいしかちょっと思い浮かばないんですが、そんなイメージを受けました。以上です。

【倉原宗孝座長】その辺の制限の中でどう表現するか。設計者のセンスといいますか、その辺は楽しみですが。渡辺さん、どうでしょう。

【渡辺央建設専門官（オブザーバー）】東北地方整備局の渡辺です。よろしくお願ひいたします。私の部門の方ではですね、まちづくりというような観点で、今回参加させていただいております。この委員会、駅とそれから駅周辺の景観ということで周辺景観も含めてですね、例えば、今事務局の花巻市さんの方からご説明あった通りに、西口の駅前をですね、再整備するっていうようなお話もあるというようなことで今伺っておりますし、そうするとですね、この西口のところで

すね、いろいろな施設をうまく配置しながらですね、例えば勉強するスペースを置くとか、それから先ほど木村委員の方からあったカレーライスを食べられるお店とか、そういうところをですね、駅とうまく分担しながらですね、西口の広場を整備する時に当然交通の話も出てくるんですけど交通処理をうまくやった上でですね、この周辺にまちとして花巻らしさを出していくっていうやり方が一つあるのかなと思います。その辺はちょっと事業費とかお金の話もあるので、花巻市さんでいろいろ考えられるところとかあと皆さんのご意見をどううまくまとめていくかっていう話はあるんですけど。一つはそのまちづくりということで、駅とうまく分担しながら、その駅から出た後に花巻らしさが出せるようなものを進めていくっていうやり方も一つあるんじゃないかなというふうに思います。あと参考になるかどうかわからないんですけど青森市さんの方ですね、自由通路を作ってらっしゃるんですけど、その自由通路というのがですね、青森なのでりんごの木箱のイメージで作ってらっしゃるんです。その木箱の何個かを抜いたところですね、絵を飾ったりとか、何て言うんだらうな、木の造形っていうか、そういうような展示物を置いたりというような、そういうアイデアもあるので、いろいろと皆さんの方ですねアイデアをうまく使いながらですね、そういうようなものを組み合わせて展示していったりとか。そういうようなところも含めて検討されたいかがかなというふうに思います。

【倉原宗孝座長】僕もちょっと一員として個人的な意見を言わせてもらおうと、やっぱり建物としてのある大きさの上でも、予算上でも限りはあるかと思うんですけども、逆に建物内だけではなくて、むしろ周辺環境との繋がりをいかに生かしていくか、そのことによってその建物としての規模の限界を補うような、ある意味で逆に可能性がどんどん広がっていくような、そのための開放部あるいは動線計画とか、その辺を意識していただきたいと思うのが1点。それから景観というお話が出ましたけれども、自由通路ということで、2階に上がることになるんで、グランドラインから見た目線と、また公共施設ですし、ある程度高さがあると思うんですけど、そこから見た景観ってのはまた異なると思いますし、その辺も計画の中で配慮いただけると面白いかなと思ったところです。

【平藤高雄委員】先ほど事務局さんの説明では、JRさんで今回のようなことを経た上で提案があれば、三つぐらいの案をデザイン的なものを示したいと、そんなふうに考えているということですが、それで今、やっぱり既存の景観とやっぱり馴染むような形にできるだけ考えて欲しいと。三つのうち一つの案はそれを提案するようお願いしたい。具体的に言うんですけど、今、花巻駅の東側の正面は切妻風のゆるい形の屋根になってるんですよ。それをイメージした、それを受けた形で狩野旅館とか向こう側の建物が、それを踏襲したような形で、まあ人によってはいろいろ感じ方があると思いますが、現在の花巻駅舎を意識した形でデザインされていると、そういうことがありますので、ぜひそちらの建物を意識した形でこの外観を考えていただくような案を一つお願いしたい。私は、いろんなことを考える上で、まっさらな状況で考える上でわざと箱型にしていますよっていう説明がありました。当然そうだろうと思います。ただ地べたから2階に上がっていく階段なりエスカレーターがあるわけですが、同じ高さ天井高にしちゃうと、上り始めっていうんですか、それがやっぱり7mとか、そんな形の高さになってしまうんじゃないかなと。果たして、何も使わない7mの入口の部分の高さっていうのは、どう使うんだらうという思いがあります。やっぱりそれらは屋根という形で片流れみたいな形にするとかしながら、或いはマッ

ちさせる、或いは作るっていう方法が、一般的な建物では作られるような気がしますけども、そこを何ですか吹き抜けが高い、天井が高いという部分を生かせるか生かせないか。そう作る場合はですよ。そういう部分をこれからデザイン的には考えていかなきゃならないんじゃないかなと、思っていますので、その何案かの中では、現在の周辺を意識した形で、一つは作っていただけるようお願いしたいものだなと思いますのでお願いいたします。

【倉原宗孝座長】三つ案が出てくるということで、当然、事業者、設計者にある程度ゆだねて期待する部分はありますけど、一つは、もう徹底的に言ったことをしっかり位置付けたのを出してくれないだろうかっていうことかと思います。もう一つは、それこそ環境設備のこともありますし、心理的な空間の影響もありますし、その辺の配慮が必要じゃないかというご意見だったかと思います。一言ずつは、いただいたんですけど、あと自由にここで言うておきたいこととかあれば、はいどうぞ。

【木村清且委員】建物に入るときにですね、建物のこちら側は妻側、妻入りつまりなんすね。こちらは平側っていいです。南部藩は、平入りなんですね。伊達藩は妻入りなんですね。賢治の生家、それから自分の家も、実はこういう平入りなんですね、格子がありました。ただ、賢治さんの作品の多くは、イーハトーブというバタ臭いですね、ヨーロッパのイメージがあるんですね。いろいろ景観の先生で、私もお世話になったんですけど、いろいろそういう景観をつなぐということで、そういう賢治の作品と街なみというのは非常にやっぱり店舗が続いておりませんので、やはり景観とすると非常に難しいんですけど、ただそういう時代としてそういう南部藩という土壌からいろいろこう時代が発展して、明治、大正、昭和になったんですけども、その中で、やはりバタ臭いような、ああいうデザインも当然、賢治も多くの作品に使ってありますんで。大正ロマン、要するにそれは竹久夢二のイメージが私は強いんですけど、非常に女性を大事にする時代。行灯とかそういう世界ではなくて、ステンドグラスの世界になるわけですけど。今童話村でやってありますイルミネーションの要するにガラスのね、ああいったようなものがまちに溢れてくれば非常に景観とすれば良いでしょうし、あとアールヌーボーですよ。この曲線的なもの、そういったものが童話村のゲートのデザインが、そういったものを踏襲して、作ってありますんで、今先生がお話しされたような、具体的にはそういう部分を、JRさんの方で、もう少し花巻のところ、いろいろ調べていただくと要素があるのかなと思っております。すいません。

【倉原宗孝座長】平入り、妻入りは、結構分布で面白いところがあって、僕自身も興味深いと思うんですが。それをどう花巻駅としてどう位置づけるかは、またちょっと検討の余地があるかと思います。それとワークショップでも、また今の議論でもですけど、賢治のやっぱりイメージがかなり色濃くあるんですけど、ただ三案いただくんで、全てべったりというのも、またちょっと違うかなと思うと、逆にその辺は参考にさせていただきながら、設計者、事業者の自由な発想を逆にいただきたいなと思うところです。もちろん先ほどあった、一つはしっかりとっていうのも含めてですね。他いかがでしょうか。この際に言うておきたいということがあったら自由に思うんですけど。もしも何かあったらまた事務局の方にいろいろコメントいただくということでしょうか。じゃあ次が、その他ということで、これは何かあるんでしょうか。

【都市機能整備室高橋上席主査】はい、その他でございますけれども、事務局から今後の予定について、ちょっとご連絡をさせていただきたいと思います。まず、本日皆さんにご意見いただい

たものにつきましては議事録という形でまとめさせていただいて、皆さんに後で送付いたしましてご確認いただきたいと思っております。また、今回ご意見いただいたデザインコンセプト案につきましては、J R東日本へ提供をいたしまして、J R東日本では基本設計の際に、デザイン案を3案程度作成することとなっております。基本設計につきましては5月頃からの開始の予定となっております。デザインが示されるのは現時点では11月頃を想定しております。デザインが示されましたらば、今回のワークショップのメンバーにも、改めてデザインについて意見を伺うこととしておりますし、地域説明会も行うこととしております。ワークショップメンバーへの説明と地域説明会を開催した後に、これらの意見と合わせまして、来年1月頃になるかと思っております。有識者会議の委員の皆様にも、またご意見を頂戴したいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

【倉原宗孝座長】参加者の方にデザイン提示する際に、極力、特に高校生とかいろいろ気になっているでしょうし、なるべく日程が来れるような日にしたほうがいいですね。

【都市機能整備室高橋上席主査】そうですね。日程もそうですし、しっかりパネルのように大きく作って見ていただいて意見いただきたいなというふうには考えてございます。

【倉原宗孝座長】はい。ありがとうございました。

【佐々木建設部次長】それでは、事務局からは以上でございますけれども、皆様から何かございますでしょうか。大丈夫でしょうか。はい。それでは長時間にわたりまして、ご審議ありがとうございました。以上をもちまして第1回花巻駅及び駅周辺の景観に関する有識者会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

(終了、午後4時20分)